既存施設の改修で生命科学の拠点を整備する

平成17年からの改修整備が完了

徳島大学　HBS生命科学棟

上：東側玄関ホール
中：歯科放射線学第一研究室
下：イメージング解析室2（総合研究支援センター）

老朽化した校舎や旧病棟を計画的に改修整備。医療系（医・歯・薬）の全領域を網羅するキャンパスを生命科学の拠点にリニューアル。

徳島大学では、医療系の全領域を網羅する教育・研究組織及び附属病院がひとつのキャンパスに集約しているという立地環境を生かし、平成16年に医学、歯学、薬学、栄養学の研究科を統合した（平成20年には保健科学も統合）大学院ヘルスバイオサイエンス研究部（HBS研究部）を設置し、学部・学科の垣根を越えた教育・研究面での連携を推進することとなったが、教育・研究活動の基盤である施設についても、特に大学院生や若手の研究者が先端的な研究を実施できる環境を整備することが重要な課題と認識され、平成17年度より計画的に既存施設の改修

を中心とした施設整備が進められてきている。

平成22年10月に、旧第三病棟を改修して整備されたHBS生命科学棟（旧名称：生命科学総合実験研究棟）は、この一連の整備の最終整備であり、医学基礎棟から始まり、臨床棟、保健学科棟等へと続いた施設整備により、老朽化していた蔵本キャンパスは、新しい生命科学の拠点として生まれ変わった。

HBS生命科学棟には医、歯、薬の19分野が同じ研究棟に集結し、1階にはHBS総合研究支援センターバイオイメージング研究部門が新たに開設され、バイオイメージングステーションの要として先端生命科学研究分野で活用される計画となっている。

蔵本キャンパスは、今後、病院外来棟の整備や、隣接する県立中央病院と一体となった総合メディカルゾーンへと大きく展開されていく構想であるが、HBS生命科学棟は、徳島大学病院と一体化できる位置にあり、生命科学研究の司令塔として機能することが期待されている。

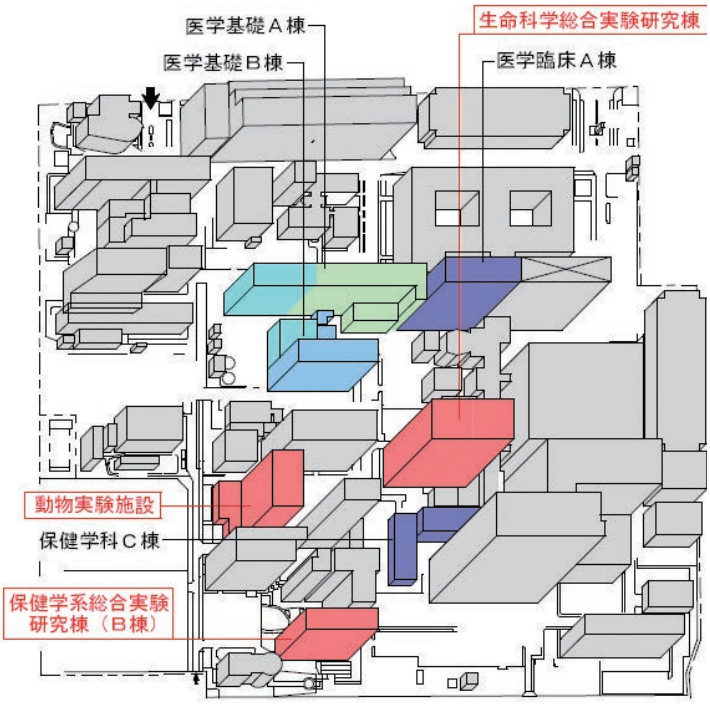
■設計の趣旨

○建築

改修整備された施設は、元々昭和56年に「第3病棟」として整備された建物であるが、病院再開発整備に伴い平成21年に、病院から学部に用途変更されたものであり、全面的な機能改修を行うとともにHBS研究部の生命科学部門を移転することにより、研究のハード面の強化を図る計画となっている。

1階には共同利用研究スペースを多く設け自由な研究の促進を図るとともに、2階～8階は、それぞれ2つの臨床分野を配置し、中央には共有スペースを有効に配置するフレキシブルな計画となっている。

構造的には、主に不足していた桁行き方向の壁をRC壁増設補強によりIs=0.53→Is=0.69とする耐震補強を行っている。



○電気

照明器具は、初期照度補正を採用し、廊下・階段・便所は人感センサーによる点滅方式とし省エネを図るとともに、停電時においても電源が必要である実験機器等への電源供給のため、既設発電機（低圧 200KVA）の点検・整備を行うことで設備の有効利用を図った計画としている。

○機械

空調設備については、1階共同利用室は冷暖フリーのビルマルを採用し、2階より上階の研究室は、分野別及び部屋別に使用時間が異なることから、個別エアコンを採用し使用者に配慮すると同時に省エネを図っている。

換気設備については、居室部分には全熱交換器を採用し省エネに配慮している。

衛生器具設備では、小便器・洋風便器には節水タイプを採用するとともに、手洗いについては自動水栓を採用し、節水対策を行っている。

■保健学系総合実験研究棟

医学、看護学、検査技術学、放射線科学専攻の総合教育、医療専門職業人育成の充実を目指し、耐震補強、バリアフリー対策及び院生、研究共用スペースの確保を行っている。

■動物実験施設

安定した清潔な動物飼育、実験環境の整備による先端医療研究の充実を目指し、老朽化した清潔空調システムの更新と清潔区域（SPF動物飼育等）の充実（従来の区域1、2階から全館に拡張）を行っている。